

令和6年度 障がい者サービス利用者懇談会 於：中央図書館

日 時：令和6年10月24日（木） 午後14時から15時30分まで

場 所：中央図書館 2階活動室1

出席者：利用者 1人

障がい者サービスボランティア 6人

図書館職員：7人

図書館長、企画運営担当1主査、サービス係長、サービス係職員（4人）

-
- | | | |
|---|------------------------|-------|
| 1 | 職員及び参加者紹介 | (5分) |
| 2 | 「第二次多摩市読書活動振興計画」について説明 | (10分) |
| 3 | 中央図書館障がい者サービスについて説明 | (5分) |
| 4 | 意見交換 | (70分) |

内容（要旨）

- 1 「（仮称）第二次多摩市読書活動振興計画」について説明
- 2 中央図書館障がい者サービスについて説明
- 3 意見交換

1 「（仮称）第二次多摩市読書活動振興計画」について説明

図書館 ・計画策定の経緯

多摩市読書活動振興計画を更新予定。図書館のもう一つの計画である、「多摩市子どもの読書活動推進計画」と一本化する。

・次期計画の位置づけについて

視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律があり、図書館利用に障害がある方への対応も次期計画に盛り込む予定である。

・次期計画について（検討段階のため変更の可能性あり）

「だれもが使える図書館」「子どもの読書環境の整備」「市民や地域に役立つ図書館」「しらべるをささえ、つながる図書館」「弾力的な管理・運営」という5つの方針を新しい計画のもとに盛り込んでいきたい。

障がい者サービスについては、次期計画の「基本方針1 だれもが使える図書館」に項目として入れる。

次期計画のポイントとして、各館毎の特色を盛り込む。また、試行的に実施している、唐木田図書館の窓口業務委託や東寺方図書館を会計年度任用職員のみで運営している運営方法について、いつまでに方向性を出すかを次期計画に盛り込む予定である。

- ・計画のスケジュールについて
令和 7 年度 9 月頃に決定する予定である。
- ・策定体制について
市役所の課長級の策定委員会、学識経験者や関係団体、一般公募の市民等から構成する有識者会議で検討している。その他、学びあい育ちあい推進審議会や第三次子ども読書活動推進市民ボランティア連絡会などに意見照会を行う。
- ・市民参画について
一般の方へ向けたアンケートを実施している。あわせて、児童、生徒、保護者、ボランティア団体、関係機関等子どもや子どもに関わる方々を対象別に分け、アンケートを実施し、集計を行っているところである。
利用者懇談会（中央図書館、東寺方図書館）を実施。障がい者サービス利用者の懇談会を本日実施。

3 中央図書館障がい者サービスについて説明

- 図書館
- ・多摩市立図書館「障がい者サービス」の利用について
障がい等のために、図書館の利用が困難な方に対して、だれもが本に親しめるよう、より良い読書環境を提供するもので、「視覚障がい者及びその他の障がいにより視覚による表現の認識が困難な方」「心身の障がい等の理由により、図書館への来館が困難な方」など「図書館利用に障がいがある方」が対象。利用にあたっては、通常の図書館利用者登録に加えて障がい者サービスの利用登録が必要である。
 - ・多摩市立図書館「障がい者サービス」の流れ
これまでは永山図書館が担当として実施してきたが、中央図書館の開館に伴い、機能を中央図書館に移動した。
 - ・実績
昨年度、作成した物は、音訳資料 3 点、点字資料 2 点である。
障がい者サービスの登録者数と貸出数は減少傾向にあったが、昨年度よりケアマネージャーが参加する会議や、病院に広報をしたこと、中央図書館が開館して注目度も上がったことで、障がい者サービスの登録者数は微増した。
その中でも宅配サービスの利用者が多く、今年度に入ってから希望者が増えていることから、10 月から宅配サービスボランティアを募集中である。
その反面、音訳資料、対面朗読を利用する利用者は減少傾向にある。
障がい者サービスについては、より一層広報にも力を入れ、新規利用者や、コロナ禍などで離れてしまった利用者にも図書館を利用してもらえるようにしていきたい。

(意見)

- | | |
|--------|---|
| 利用者 | 利用者数の減少は、サピエ図書館から音訳資料等を直接ダウンロードできる機器が出回ってきたこと、図書館に依頼しなくても、自分でダウンロードできることが影響しているのではないか。図書館として、サピエ図書館を直接利用している利用者にアプローチできるようなサービスを検討してみてもよいのではないだろうか。 |
| 図書館 | サピエ図書館に登録するには、図書館障がい者サービスの登録が必要になる。以前、サピエ図書館に個人登録の希望が来た際は、再生機器（プレクストーク）の紹介をした。現状としては機器の紹介、貸出などでアプローチしているが何かほかに方法があれば教えてほしい。 |
| 利用者 | 最近の多摩市の傾向として、高齢になってから視力が悪くなりデイジー資料が必要になる場合が多い。障害福祉課はデイジー図書のPRをしていない。先天性の視覚障がいの方は情報を持っているが、後天性の方は情報が不足している。情報弱者にならないような取り組みに力を入れてもらえればよい。 |
| 図書館 | 各課との連携として、利用案内（墨字）を各所に置いている。障害福祉課、子ども、高齢の方が来訪する場所には障がい者サービス利用案内も置いてもらうように手配しているところである。 |
| ボランティア | デイジー資料、点字資料の自館作成数に変化がない。リクエストがない場合は、予算消化のために作成しているのか、それとも予算がないから作成ができないのか。 |
| 図書館 | 確かに去年度はリクエストも少なく、令和5年7月に障がい者サービスの機能を永山から中央に移す作業もあり作成数が減ってしまった。
リクエストに応えられるように、予算はしっかりとっている。
リクエストがない時は、欠けたシリーズの作成をしている。今後は、カセットテープのデイジー化を進めていきたいと考えている。 |

4 意見交換

※「第二次多摩市読書活動振興計画」骨子案に沿って意見を伺う。

(だれもが使える図書館)

1-1 様々な世代がより利用しやすくなるための配慮

* 図書館として居場所作り、交流拠点機能の確保

利用者 シネマデイジーの上映などはよいのではないかと。1980、90年代の映画はシネマデイジー化していないものもあるので需要がある。映画館でもアプリを使えば音声案内を聞きながら見られるものもあるが、古い映画はそういったものがないので、やってもらえたらよい。調布などではシネマデイジーを作成している。視覚障がい者が図書館へ来るきっかけになる。
また、座席については、使いたいと思っても場所がないと足が遠のいてしまう。もし会議室などが使えれば開けてもらうなどしたらよいのではないかと。

利用者 たま広報で聞く限りでは、図書館は今、様々な企画をしてくれている。来年にいわさきちひろさんのお孫さんが来てくれると聞いた。早めに情報を出してくれると予定が立てやすい。

図書館 いわさきちひろさんのイベントは、カフェと連動して開催する予定である。現在調整中だが、早めに情報を出せるようにしたい。

* 情報発信

ボランティア たま広報で情報を得ている。

利用者 メルマガはないのか。ほかでも少しずつ始まっている。
日時をきめて情報を配信してもらえると一般の方にもよいし、視覚障がい者も音声で聞くことができる。
自分たちは郵便で送付している「声のやまばと通信」で情報を受け取っているが、「声のやまばと通信」対象者でない方もメルマガなどで情報を受け取れるようにしたらどうか。

図書館 多摩市の公式 X などではみているか。

利用者 視覚障がい者は X とか LINE に疎い方もいる。どんどん更新されるものには追いついていない。

スマホはみんなが持ってはいるが、使いこなせているかはまちまちである。電話だけとか、PCの方が使いやすい。

ボランティア 予約するために図書館 HP を毎日見ているが、検索画面が電子図書館と一体になっていないので使い勝手が悪い。

図書館 図書館システムと連携はしている。最初の検索のところで図書と電子にチェック (☑) を入れておけば検索をまとめてできる。読むときは、電子図書館のページに飛ぶ必要がある。
ただ、電子書籍は紙の図書に比べ圧倒的に資料数が少ない。

ボランティア 図書館 HP のイベント情報は決定したらすぐに情報を掲載しているのか。

図書館 すぐには出していない。
また、たま広報は記事の締切が早く、同じ記事を2度出すことができないため、申込を開始するタイミングで出している。

図書館 例えば、メールでお知らせを提供するようになった場合は、どんな情報があったらよいか。

ボランティア メールで送付されたイベントの紹介から申込ができるとよい。

図書館 HP では読み上げ機能は使用しているか。

利用者 たま広報の読み上げ機能は使い勝手が良くない。クリックしないと先に進まない。視覚障がい者にはマウスでのクリックが難しい。「詳しくはたま広報で」という記事をよく見るが、クリックすることができないので閲覧することは難しい。結局専用のソフトで読み上げか、たま広報のデイジー版になる。

図書館 再生機器の貸出についてはどのように考えているか。

利用者 今、図書館にて貸出を行っているのは、「PTR2」だと思う。「PTR3」を図書館で貸出用にしてもらえると、より楽しめることが増える。新しく発売したセンズプレーヤーは図書も読めるし、墨字資料もかざせば読んでくれる。新しい機器の説明をするとよいのではないか。しかし、どのくらい利用者が集まるのかはわからないので、個人で「これが使いたい」と要望があったときに詳しく説

明してあげるのがよいのでは。少しずつ予算をとってもらって、新しい機器を取り入れていただいて、広報していただけるとよい。

図書館 図書館へのご意見として承る。現状として「PTR3」の貸出は検討中だが、「PTN3」は貸出できる。実際、去年度は既に1, 2回貸出している。

利用者 PTN3があるならよいのではないだろうか。

1-3 高齢者サービスの充実

ボランティア 高齢者施設は団体貸出対象なのか。

図書館 そうだ。

ボランティア 結構利用されているのか。
選書は誰がしているのか。
施設の職員は忙しく、読書できる元気な高齢者までなかなか目がいかないので、図書館に選書をしてもらえるとよい。

図書館 担当が違うため詳しい数字はわからないが、担当と検討していきたい。

ボランティア 対面朗読サービスの利用が減っている。どうやったら、コロナで利用を中止してしまった人を呼び戻せるのか。
当事者が読んでほしいものと、図書館で読むことができるものが食い違っていた。そのあたりは今後どうか。図書館から出張して外部で対面朗読はやらないのか。

図書館 現在多摩市立図書館では、所蔵資料しか読めない。調布市立図書館では所蔵資料だけでなく、チラシや個人的な書類も要望があれば読んでいるようだ。多摩市立図書館でも実施が可能なのかは検討する必要がある。また、数年前から対面朗読をオンラインでできないか検討している。
出張おはなし会は、コロナ前、高齢者施設にてボランティアが実施していた。今年も実施可能か確認したところ、マスクなどの問題で実施ができなかった。今後、職員で行うことを検討している。

図書館 かなり前になるが、高齢者施設で個人の方に対面朗読をやっていた。ただ希望が少なかった。今後も希望があれば、手配さえできれば可能ではある。

ボランティア 高齢者施設に入っていない方でも、決まった場所に行けば読んでもらえるということになれば違うのではないかな。

1-5 読書バリアフリーの推進

ボランティア 対面朗読を月に4回行っている。ボランティアと利用者の一対一で行うので、もったいないと思う。要望があれば、その方の個人的な資料も読んでいる。海外だと好きな本を皆でまわして読むような読書会が多くある。図書館が声掛けして、障がい者ということに固定せず、いろんな人が来られる読書会ができたらよいのでは。せっかくボランティアもいるので、協力できる。

図書館 図書館としてご意見を承る。

ボランティア 対面朗読の際に、私的なもの（DM）を読むのは福祉の分野だと言われて終わってしまったことがある。その後何か変わりはないか。福祉分野との連携はどうなっているか。

図書館 図書館としては、まずは図書館の資料を読むサービスを重要視している。空いた時間で図書館以外のものを読んでいただく分には、図書館は関知しないが、はっきりと図書館資料以外もよいとは言えない。

利用者 私的なものを不可能にしてしまうと、利用者は減ってしまう。ボランティアが言っていたように、ひとつのものをみんなで聞いて、ついでにこれも読んでほしいというのも良いのではないかな。コミュニケーションの場になるし、防災などの面においてもつながりができて良いのではないかな。

図書館 現状として公に可能とはお伝えできないが、利用者より要求があったものに関して読んでもらってよいとは考えている。従来の考え方にこだわりすぎずに考えていきたい。福祉との切り分けは、バランスよくいきたい。

ボランティア 中央図書館は電話をすると担当者に行きつくまでの時間がかかるので改善してほしい。

利用者 他の図書館の部屋予約の際も必ず中央図書館に連絡しないといけないので不便である。

図書館

障がい者サービス担当の仕事をしている場所と事務室が離れてしまっている
ので、連絡をスムーズにとることができない。
今後、電話の運用方法について検討していきたい。